

「経済論叢」「調査と研究」執筆要領 2008.11.13 改正

京都大学経済学会編集委員会

1. 本学会の正会員および平成 21 年度以降入学の本学経済学研究科大学院生（出身者を含む）は投稿することができる。執筆者が 2 名以上の場合は、少なくとも 1 名は上記の要件を満たさなければならない。
2. 正会員以外の投稿論文の掲載料は 30,000 円とする。
3. 本学会評議員以外の投稿原稿については、レフェリー審査（レフェリーは 2 名）を行う。レフェリー審査に基づき編集委員会が掲載の可否（(a) そのまま掲載可、(b) 改訂の上、掲載可、(c) 改訂の上、再審査、(d) 掲載拒否）を決定する。また、レフェリー審査を受けた論文については掲載時に「査読付き論文」である旨を明記する。
4. 「経済論叢」及び「調査と研究」に掲載された論文等の著作権は、経済学会に帰属する。したがって、他で当該論文等を使用する場合は、経済学会の許諾が必要になる。
5. 「経済論叢」及び「調査と研究」に掲載された論文等は、全文データベース化し、公開する。
6. 原稿は横書きとし、完全原稿であること。A4 判横書き 1 ページ 35 字×30 行で明瞭に印刷した原稿 3 部と、その電子ファイル 1 式（利用した OS 名、ソフトウェア名を明記すること。図表も電子ファイル化すること）を、京都大学経済学会に送付すること。
7. 投稿原稿にはタイトルと氏名、英文タイトル、ローマ字表記氏名、所属、住所、電話番号、E メールアドレスおよび指導教員がいる場合は指導教員名を記入した表紙を付けること。
8. 原稿の字数制限は下記のようにする。
「経済論叢」論文・24,000 字以内。
研究ノート・12,000 字以内。
書評・8,000 字以内。
図版および表は 1 枚 400 字に換算する。
「調査と研究」は論文、研究ノート、調査、サーベイ等全てを 34,000 字以内とする。図版および表は 1 枚 400 字に換算する。
9. 論文の執筆には原則として現代かなづかい、常用漢字を用いること。
10. 本文中の章題番号はローマ数字（ゴシック）Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、・・・を使用し、節題番号はアラビア数字 1, 2, 3, 4, ……を使用すること。
11. 継続論文の表示はアラビア数字（1）、（2）、（3）、・・・を使用すること。
12. 句読点には、（コンマ）、。（読点）を使用すること。
13. 論文中の数字については、原則としてアラビア数字を使用すること。
例・2000 年、第 19 巻、等
14. 本文中の数の位は、「万、億、兆」の漢字で表し、「千」以下の漢字およびコンマは使用しない。（図表、数式は除く）
例・1 億 3000 万、650 万人、等

15. 数式は特に指示がない場合、変数はイタリック体を使用する。
16. 外来語は必要以外はカタカナを使用する。
例・独逸→ドイツ，頁→ページ，等
17. 表および図は本文とは別に作成し，その挿入箇所はプリントアウトした原稿に指示すること。
18. 表および図の見出しは，第1表，第2表，・・・・，第1図，第2図，・・・・，あるいは表1，表2，・・・・，図1，図2，・・・・，として通し番号を付すこと。
19. 表および図に関する注と資料出所は，表と図の下に記すこと。その際，注を上段に，資料出所は下段に明示すること。
20. 注は脚注形式をとるので本文とは別に作成し，一論文にわたる通し番号とすること。
21. 注番号には1)，2)，3)，・・・・を使用し，右肩に指示する。プリントアウトした原稿上に注番号を赤で丸囲みして，注の位置がわかるようにする。
例・「資本論」²⁾では・・・・
「・・・・興味のあることである」³⁾といている。
「・・・・認められている。」⁴⁾
・・・・示されている⁵⁾。
22. 引用文献，参照文献の表記については原則として下記の方式を用いることとする。
 - 1) 日本語文献
 - a. 単行書
著者『書名』(シリーズ名) 出版社，出版年(原則として西暦)，引用ページ。
例・浜田宏一『国際金融』(モダン・エコノミックス 15) 岩波書店，1996年，100-105ページ。
 - b. 論文(講座，シリーズ，論文集等に収録されたもの)
執筆者「論文名」(編者『書名』，出版社，出版年)，引用ページ。
例・中村泰治「本来の貨幣と未来の貨幣」(山口重克編『市場システムの理論--市場と非市場--』御茶の水書房，1992年)，138ページ。
 - c. 雑誌論文
執筆者「論文名」『雑誌名』巻号，年月，引用ページ。
例・本山美彦「米国の凋落と複数基軸通貨制度の可能性」『経済論叢』第160巻第3号，1997年9月，5ページ。
 - d. 新聞
『新聞名』年月日，朝夕刊。
例・『日本経済新聞』1998年4月20日付，夕刊。
 - 2) 外国文献
著者名は倒置して姓名の順にする。共著者の場合，2人目以降は倒置しない。
書名，雑誌名，新聞名はイタリック体にする。

ページは、ドイツ語、ロシア語を除いて p. を使用する。引用箇所が2ページ以上にわたるときは pp. を使用する。

ドイツ語は S. (大文字) を使用し、引用ページが2ページ以上にわたっても SS. とはしない。

ロシア語は cnh. を使用し、これも引用ページが複数になっても変わらない。

a. 単行書

著者, 書名, 版次, 出版地, 出版社, 出版年, 引用ページ.

例・Warren, C. S., J. M. Reeve, P. E. Fess, *Financial & Managerial Accounting*, 5th ed., Cincinnati, South-Western Pub. Co., 1997, pp. 80-89.

b. 邦訳のある単行書

著者, 書名, 版次, 出版地, 出版社, 出版年, 引用ページ. (訳者『書名』, 出版社, 出版年)。

例・Hodgson, G. M., *Economics and Institutions : A Manifesto for a Modern Institutional Economics*, Camb., Polity Press, 1988, pp. 9-11. (八木紀一郎他訳『現代制度派経済学宣言』名古屋大学出版会, 1997年)。

c. 論文 (論文集に収録されたもの)

著者, “論文名” in 書名, ed. by 編者名, 出版地, 出版社, 出版年, 引用ページ.

例・Shepherd, W., “Monopoly and Antitrust Policies in Network-Based Markets such as Electricity” in *The Virtual Utility : Accounting, Technology & Competitive Aspects of the Emerging Industry*, ed. by Awerbuch, S., A. Preston, Boston, Kluwer Academic Pub., 1997.

d. 雑誌論文

執筆者, “論文名,” 雑誌名, 巻, 号, 月年, 引用ページ.

例・Kugler, Peter, “Neuere Entwicklungen der Konjunkturtheorie,” *Allgemeines Statistisches Archiv*, Bd. 82, Heft 1, Jan./März 1998, S. 26-28.

e. 新聞

新聞名, 日月年.

例・*Financial Times*, 21 April 1998.

23. 繰返しの引用, 参照の表記については原則として下記の方式を用いることとする。

1) 日本語文献

a. すぐ前に引用文献がある場合

同上書 (または同上論文, 同上誌, 同上紙), 引用ページ。

例・同上論文, 95 ページ。

b. 間に他の引用文献がある場合

姓, 前掲書, 引用ページ。

例・本山, 前掲書, 13 ページ。

2) 外国語文献

a. すぐ前に引用文献がある場合

Ibid. (同上書, 同上論文の意), 引用ページ.

例・13) Gilpin, R., *U. S. Power and the Multinational Corporation*, New York, Basic Book Inc., 1975, p. 220.

14) *Ibid.*, pp. 225-226.

b. 間に他の引用文献がある場合

姓, *op. cit.* (前掲書, 前掲論文の意), 引用ページ.

例・2) Viotti, P. R., M. V. Kauppi, *International Relations Theory*, 2nd ed., New York, Macmillan Pub. Co., 1993, pp. 5-7, 35-37, 59.

3), 4), 5)

30) Viotti and Kauppi, *op. cit.*, p. 537.

3) ドイツ語文献

a. すぐ前に引用文献がある場合

Ebenda (または ebd. で同上書, 同上論文の意), 引用ページ.

Ebenda はイタリック体にしない。

例・Ebenda, S. 55-62.

b. 間に他の引用文献がある場合

姓, a. a. O. (am angegebenen Ort の略で前掲書, 前掲論文の意), 引用ページ.

これもイタリック体にしない。

例・Bues, A., a. a. O., S. 10.

24. 引用文献, 参考文献を論文末に一括して表記する場合は, アルファベット順または 50 音順に配列して一連の番号を付し, 本文の中でその文献番号または引用文献の刊行年, および引用ページを [] 内に示す方法を使用しても良い。

例・拙稿 [1995a] [1995b] では, A. H. アバッティの『請求されない富』[1924] における有効需要論を紹介した。

「 増税し, 通貨を収縮した」(Fisher [1932] p. 105)。

参考文献 (論文末尾)

Abatti, H. A. [1924] *The Unclaimed Wealth, How Money Stops Production*, London, George Allen & Unwin.

.
.

Fisher, I. [1932] *Booms and Depressions, Some First Principles*, London, George Allen & Unwin.

.
.

小島専孝 [1995a] 「ミンスキー, フィッシャー, ホートリー . . . 債務, 貨幣, 景気循環 . . .」

(青木達彦編『金融不安定性と脆弱性・・・バブルの金融ダイナミズム・・・』日本経済評論社)。
小島専孝 [1995b] 「アバッティの有効需要論 (1) ・ A. H. アバッティ ・ 無視されている
『一般理論』の先駆者 ・ 」 『経済論叢』 第 156 巻第 1 号。

25. 校正は著者校正を再校まで行い，三校は編集事務局で行う。校正では原稿の訂正，文章の加除は原則として認められない。

26. 校正はすみやかに行うこと。

27. 抜刷は 30 部渡すこととする。

28. この執筆要領の 9～26 は原則であって，これに絶対従わなければならないものではないが，同一論文の中では統一された形式が採用されなければならない。